

糸魚川市の魅力ポイント

■ 面積 746.24km² ■ 人口 約3.8万人 ■ 指定地域 豪雪、特定農山村、振興山村、過疎

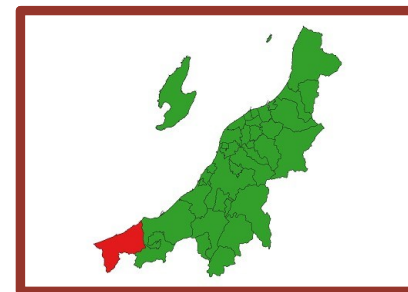
■ 日本初のユネスコ世界ジオパークのまち

- ・日本海から、北アルプスの山々まで壮大なスケールで広がる緑の大地。
 - 2つの国立公園（妙高戸隠連山、中部山岳）と3つの県立公園（久比岐、白馬山麓、親不知・子不知）
 - 8つの漁港と6つの海水浴場！

※ジオパーク：「地球・大地（Geo）」と「公園（park）」を合わせた造語

■ 日本一の石ころタウン！

- ・フォッサマグナの上にある糸魚川は、岩石の種類が豊富！
- ・国石「ヒスイ」（2016.9.24選定）、新潟県の石「翡翠」（2022.11.4指定）

出典：糸魚川の自然の特徴/糸魚川市 (itoigawa.lg.jp)出典：＜特産品＞ベニズワイガニ漁の解禁（糸魚川市）/
糸魚川市 (itoigawa.lg.jp)

日本の国石ヒスイ 写真提供：糸魚川市

出典：日本の国石 ヒスイ | 糸魚川ジオパークについて | 糸魚川ユネスコ世界ジオパーク (geo-itoigawa.com)

糸魚川市の課題

■ 政策分野 公共事業

1	大型公共事業に伴う発生土の処理 【活動当初のテーマ】	・親不知道路・糸魚川東バイパス、松糸道路の整備に伴う発生土（約200万立米規模、時期未定）について、処理するまとまった敷地が極めて少ない。 ・さらに急峻な地形から災害発生土の処理リスクが存在。
2	地方行政のDX化	・市職員数も減少しており、職員採用が年々厳しい状況にある。将来的な人員不足でも行政運営のために業務のDX化が必須。 ・地すべり巡視員は、住民委託となっているが、過疎化・高齢化により、人員確保が厳しくなっている。省力化を図るためDX化が必須。
3	公営住宅のフル活用	・公営住宅の入居率が低迷し、今後の社会情勢を見据えた“公営住宅あり方”の検討が必要。 ・公営住宅の再編、最適化、用途変更 等の検討。

応援隊の活動報告

これまでの活動 現地訪問を計2回、web会議を2～3か月に1回程度実施し、現場での課題・問題意識を把握するとともに、国の施策を紹介。

	課題	取組の成果	今後の展望
1	大型公共事業に伴う発生土の処理	・現地訪問時に、大型公共事業候補地、発生土の埋立候補地を視察。 ・「建設発生土の利活用事例集」、「建設発生土の官民有効利用マッチングシステム」について情報提供。 ・「新しい地方経済・生活環境創生交付金」の活用を見据えて、検討を開始する。	・大型公共事業の推進を図るため、国の交付金や補助金事業を活用し、将来構想や中長期計画の策定に着手する。 ・市の取組事項、関係機関への働きかけを整理し、短期的と長期的の取組計画を立案する。
2	地方行政のDX化	・情報通信技術（ICT）やデータ活用を通じた地域課題解決に精通した「地域情報化アドバイザー」の派遣制度の活用を提案。 ・地すべり巡視のDX化について、「デジタル田園都市国家構想交付金」での類似事例の紹介。	・全国の類似事例を調査・研究し、必要に応じて先進地を視察する。 ・応用できそうな事例について、国の各施策を活用する。
3	公営住宅のフル活用	・現地訪問時に、市内に点在する公営住宅を視察し、空き室の発生等の課題を把握。 ・公営住宅の空き住戸について、目的外利用も含めて、概要・手続、活用事例を提供。 ・「新しい地方経済・生活環境創生交付金活用」の検討についてディスカッションを実施。	・全国の先進事例を調査・研究し、公営住宅の目的外使用の活用モデルを検討・立案する。